

自然教育の前提と手段

渡辺隆一*

地域とは単なる地理学上の概念において存在するものではなく、何よりもそこに住む人達の意志と認識とによって主体的に成立すべきものである。地域自然も同じく“地域の人達から認められ、理解された存在としての自然”という願いをこめて考えたい。自然は、特にそれが自然らしい自然、人為の少ない自然であればあるほど、人の手で守られなければならないほど小さく弱く、かすかな存在になっている。もはや、法律も含めて人の手から離れては生きられる自然なぞ日本にはあり得ないし、また、世界においてもである。ましてや、個々に細分された各地域の自然が存在し続け得る道は、地域の社会的な理解と認知のもとで、両者の相互的な結合が意識的に作りだされることにある。ここにこそ、自然教育の重要な役割が存在する。

自然教育が成立するためには、それぞれの地域が、主体的な地域社会たり得ていることが前提条件である。ある社会が住むに値する存在であるためには、そこが、主体的にかかわる中で各自の個性と相互の連帯とが調和的に生産されてゆく世界でなければならないだろう。このような地域社会が構成されていなければ、それぞれの場所の自然は地域自然として明確に認識され得ないだろう。当然ながら自然教育もまたあり得ない。自然保護や反公害の運動が問題としてきたものも、またこの点にあるのであって、“地域社会が、その自然、生きる前提としての空気や水を含めて主体的な世界となっているか”が斗われてきたはずである。つまり、自然が語り合える対象としての地域社会がなければ、自然は生きた存在として地域社会の生活を支えることはできないだろうということである。

十分に成熟した地域社会があったとして、この地域社会と地域自然との対話はどのように行なわれるのであろうか。地域の自然を正確に理解すれば、それがどんなに分断され、かすかな存在となっていようと、確実に人間の生活を支えている姿を見いださう。魚業、農林業、そして観光業など目にみえて生活を支える自然もある。そして、これらの業を通して支えられてある私達の生活もまたそこから導かれ得る。そして、都市の中にさえ緑のうらおいを呼び戻そうとする運動が着実に発展しているように、自然を離れては存在し得ない人間の姿も理解されるようになってきた。もはや、自然も社会も相互の

関連の中でなければ存在しえなくなっているのである。

自然教育は“なにか”をもって、この自然と社会とを橋渡ししなければならない。ここでは、これまでに試みられてきたいくつかの例について述べてみたい。

その一つに“地域自然だより”の発行がある。個人、あるいは団体が地域自然をさぐり、そこからのニュースを定期的に地域社会に提供し続ける。地方紙が人と人とのコミュニケーションをはかるように、この自然だよりは人と自然とを結んでくれるだろう。このたよりの中の生きたニュースによって自然とは教科書の中にある概念的なものではなく、社会のわきで息づいている身近な隣人なのだということを知るだろう。地域自然の成り立ちや自然界のできごとを知る中で、一つの地域の中に自然と社会とが共存していること、共存しなければならないことを知るだろう。今、全国各地でこの地域自然だよりが発行されている。その形や内容は実にいろいろであるが、こういった意味でその役割は、どこにおいても極めて重要であり、より一層広がるだろう。第2に、各地の“自然教育施設”がある。典型的なものとしては、“自然教育園”や“県民の森”で、各地域の自然の保護と調査を行ない、自然観察会等により、社会が地域自然の正確な理解を得ることを助けている。こうした施設は全国各地に急速に増えつつあり、その社会的な要求は強いものと思われる。その名称や設立主体は極めて多様であるが、どこにおいても、自然との対話の入口として貴重な役割を果たしている。第3の手段として教育そのものがある。教育園のような施設(ハード)に対して、ソフトといってもいいかもしれない。これには学校教育と生涯教育とがある。いずれにしても制度化されてはおらず、一部の人達が熱心にそれぞれの分野で自然教育を根づかせるのに努力している。特に、最近では理科の一部としてでなく、“地域の中での自然と社会のあり方”といったより本質的な方法が盛んになってきている。後者についても、公民館活動の中などで自然観察会やハイキングなどが盛んに行なわれるようになり、教育園等の利用も多くなってきている。多方面でのこうした努力によって、自然教育はやがて社会の中に着実に根づくであろう。

こうした手段だけでなく、他にも様々な試みが自然と社会の橋渡しを行ない両者の共存を模索しつつある。社会が自然に目をむけることで、逆に地域社会自体のありかたについてより確かな認識をもちうることだろう。

* 信州大学教育学部 Fac. Educ., Shinshu Univ.